

---

### 3章 UDCKの活動の実態把握と市民への影響

- 
- 3.1 市民を対象としたまちづくりの実践
  - 3.2 活動の概要－ケーススタディ
    - 3.2.1 公民学連携の学びの場－まちづくりスクール
    - 3.2.2 市民科学の実践－カレッジリンク
    - 3.2.3 地域教育の実践－ピノキオプロジェクト
    - 3.2.4 商業と市民の交流の場－マルシェ・コロール
    - 3.2.5 コミュニティネットワークの実践－まちのクラブ活動
  - 3.3 活動の実態調査
    - 3.3.1 調査概要
    - 3.3.2 調査結果
  - 3.4 活動の特性による市民のまちづくり意識への影響

### 3章 UDCKの活動の実態把握と市民への影響

#### 3.0 目的

本章では、UDCKの活動の中から市民を対象とした活動のケーススタディとして、5つの活動（まちづくりスクール、カレッジリンク、ピノキオプロジェクト、マルシェ・コロール、まちのクラブ活動）を取り上げ、活動発足の経緯や運営など、活動実践に至るまでを整理し、参加者である市民に対してアンケート調査・ヒアリング調査を行ない、活動の影響について分析することを目的とする。

#### 3.1 市民を対象としたまちづくりの実践

##### 3.1.1 市民を対象としたまちづくりの実践

UDCK利用者・活動参加者であるそれぞれの主体にとって、その存在の意義や今後の課題については前章のヒアリング調査より明らかになった。しかし、これらはあくまでも活動主体の視点から見た一つの評価であり、それを受ける側からの視点が必要である。従って、UDCKの一役割を担うそれぞれの活動について詳しく調査する。表3-0に調査内容を示す。

UDCKの4年間の活動について、別紙2により、UDCK活動の多様性が明らかとなり、それらの活動の市民のまちづくり意識hに影響を検証する。特に本研究では、UDCKに関わっている多くの主体—行政、大学、企業、NPOと市の関係について焦点を当てており、市民を参加者の対象としているものを取り上げた。また、その他2点を踏まえた計3点に着目し、市民対象の中からケーススタディとして5つの活動を選定した。

<選択条件>

- ①市民を対象とした活動
- ②行政、大学、企業、NPOと住民・市民の関係がある活動
- ③長期的な活動をおこなっている活動

表3-0 活動調査方法

調査方法	no	対象者	質問者	人数	調査日程
資料調査	—	—	—	—	—
ヒアリング調査	5	NPO支援センターちば 宮奈由貴子さん	著者	11人	2010年5月22日
	6	元UDCKディレクター 丹羽由佳里さん			2010年6月18日
	7	元空間計画研究室学生 砂川亜里沙さん			2010年6月21日
	8	三井不動産 中田聖司さん			2010年7月5日
	9	千葉大学 上野武先生			2010年7月8日
	10	東京大学 日高仁さん			2010年7月9日
	11	横浜市 信時正人さん			2010年7月21日
	12	柏市 石黒博さん、 岩崎克康さん、齊藤智之さん			2010年7月23日
	13	元UDCK副センター長 前田英寿先生			2010年7月29日
	14	首都圏新都市鉄道 石井慶範さん			2010年11月17日
	15	UDCKディレクター 田口雅之さん			2010年11月26日
資料調査	—	—	—	—	—
ヒアリング調査	16	元UDCKディレクター 丹羽由佳里さん (2回目)	著者	6人	2010年11月1日
	17	千葉大学 野田勝二先生			2010年12月4日
	18	NPO支援センターちば 小満敏央さん			2010年12月8日
	19	NPO支援センターちば 宮奈由貴子さん (2回目)			2010年12月11日
	20	NPO支援センターちば 齊藤香代子さん スパイラル 中澤徹さん			2010年12月24日

## 3.2 活動の概要—ケーススタディ

---

### 3.2.1 まちづくりの学びの場—事例1『まちづくりスクール』

#### 【概要】

#### (1)活動発足の背景・経緯

2007年をはじめに創設者である北沢の発案により、市民講座として「まちづくりスクール」が発案された。北沢が以前横浜で行っていたフューチャーカフェ<sup>1</sup>を経験していたこともあり、まちづくりには市民・行政・学生が共に議論できる場を必要としていた。<sup>2</sup>

主催を柏市振興公社（以下公社）が担うことになった経緯は、経費の処理が行い易いことが要因であり、実際の企画や運営は柏市からの意見が多く挙げられ、UDCKスタッフと共に企画を行っており、公社は運営資金の段取りを中心に担っている。

#### (2)活動の概要・目的<sup>3</sup>

「まちづくりスクール」はこれからのまちづくりの担い手を育てることを目標とした市民講座である。しかし、その参加者は市民だけではなく、行政職員や大学生も対象としており、「公民学」の様々な主体が参加し、まちづくりの実践の場となっている。

講師は大学の教授陣やまちづくりの第一線で活動する専門家を迎え、数回のプログラムを通してまちづくりを実践的に学び、地域に対する議論や活動が活発になることを期待して行われている。

2006年11月に創設され、2007年4月から開始し始めたUDCKの市民に開いた活動の一つとして、2007年5月からまちづくりスクールがスタートし、その後は毎年1年に1～2回開校しており、2010年度までの4年間で修了生が120名を超えると報告されている。最終回には受講生ひとりひとりにスクール修了証が手渡される。

初年度の2007年度は「まちづくりの市民リーダーの養成」をテーマとし、春コースでは、まちづくりを市民参加、経営、景観・ランドスケープ、アート、LOHASの視点に分け、各回該当分野で広く活躍している専門家と柏地域で実践している実務家をペアで招き、基調講演後、パネルディスカッションや、受講生との活発な意見交換を行った。秋コースでは、ワークショップに重要な進行方法をトレーニングする「ファシリテーター育成講座」を展開した。概論からファシリテーションの実習、テーマ設定やプロセスデザインという「場を進める技術」の習得を目指した。

2008年度は「エコデザイン」をテーマに、前半を講義とし、後半では市民が考えるエコデザイン企画の検討をワークショップ形式で行った。後半のワークショップでは、前修了生が各チームのファシリテーターを担当し、最終的には「自転車(えこさいくる)」、「農(チーム農)」、「コミュニティ(エコ楽サロン)」の3提案が出された。柏の葉自転車クラブ(まちなかクラブ活動)のように、関連するワークショップや実証実験の意見交換会へ参加するなど、スクール内での活動に留まらず、その後、継続してまちの中で展開されているものが出てきた。

---

<sup>1</sup> フューチャーカフェ

創造都市横浜推進事業とUDCY横浜アーバンデザイン研究機構の協力事業であり、新しいイノベーションクラスター(知の集合)を創出することを目的に開催しているイベント。2009年に開港150周年を迎えた横浜で、「大学連携とまちづくり」と手法にスポットをあて、横浜の持つ地域資源・特性を最大限に活かした、新たなにぎわいや魅力づくりについて議論を展開するもの。

<sup>2</sup> 関係者丹羽由佳里氏へのヒアリング調査より

<sup>3</sup> まちづくりスクールHPより抜粋、編集

2009年度は「まちを市民がデザインする」をテーマに、市民参加型まちづくりの歴史、オープンスペースの考え方、ワークショップを通じた計画づくりのプロセス、実際に行政と市民が協働するにはどうしていくのかを、柏市の事例をはじめ国内外で展開されている事例を元に具体的に学び、秋コースではワークショップにより、具体的なアイデアを議論し、発表した。

2010年度は「高齢社会のまちづくり」をテーマに、人間とまち、住宅における高齢者デザイン、集合住宅におけるコミュニティ形成等について考えた。社会学、建築学、都市計画学、そして行政の立場から専門家を講師に招いた。(表3-1参照)

表3-1 まちづくりスクールの概要

年度	コース	テーマ	開催日	定員 (人)	参加人数 (人)	内訳	参加費	
2007	春コース まちづくり入門講座	市民参加によるまちづくり	5/26	30	36	学生 3 自治体 7 一般 26	3000	
		まちの経営を考える	6/9					
		街並み・景観・ランドスケープ	6/23					
		アートがつなぐまちづくり	7/7					
		LOHASとまちづくり	7/21					
		提案! 柏のまちづくり	8/4					
	秋コース まちづくりワークショップ の進め方を学ぶ	まちづくりワークショップってな何?	10/20		28	28		学生 8 自治体 3 一般 17
		ワークショップを自分たちで体験してみよう	10/28					
		創造的な議論を導くためのファシリテーション技術を学ぼう	11/10					
		さあ、自分たちでテーマを決めて実践してみよう	11/25					
2008	柏の葉エコデザイン	地球環境問題・気候変動	10/11	30	10	学生 1 自治体 0 一般 9	3000	
		柏市の取り組み ー柏市地球温暖化対策計画ー	10/18					
		環境を軸としたビジネスモデルの構築	11/8					
		環境と健康のつながり、葉草園での漢方医療	11/22					
		企画提案づくりワークショップ1	12/6					
		企画提案づくりワークショップ2 プレゼンテーション	12/20					
2009	春コース まちを市民がデザインする	まちを市民がデザインする	6/10	30	36	学生 12 自治体 10 一般 14	3000	
		オープンスペースの使われ方とデザイン	6/24					
		ワークショップを通じた計画づくり	7/8					
		行政と市民の協働	7/22					
		公開シンポジウム	8/1					
	秋コース まちを市民がデザインする	シビックプライドと都市のコミュニケーションデザイン	11/4		29	29		学生 5 自治体 5 一般 19
		環境健康都市宣言・柏の葉のまちづくり	11/18					
		デザインワークショップ1	12/2					
		デザインワークショップ2	12/16					
		公開シンポジウム	12/23					
2010	高齢社会とまちづくり	「近代核家族」の老後と住まい	9/15	30	30	学生 1 自治体 10 一般 19	3000	
		新しい高齢社会のデザインー柏における試み	9/22					
		柏市の福祉政策の現状と今後	9/29					
		福祉施設導入による住宅地の再生	10/6					

(出典：丹羽由佳里氏によるまちづくりスクールまとめ)

(3)主催・協力・後援

主催は柏市、協力はUDCKと柏市都市振興公社で行っている。

(4)組織体制・運営

企画：UDCK、柏市（企画調整課、公社、たまに公園緑政課、都市計画課など）、柏市振興公社

運営体制：UDCK、柏市振興公社、市民スタッフ、学生スタッフ

企画の内容は、柏市企画調整課とUDCKスタッフが話し合っている。公社は、運営資金の段取りを中心に担っている。

運営のプロセスとして、企画段階ではUDCK、柏市、都市振興公社の三者がミーティングを重ね、テーマの決定、講師の選定、スタッフ募集、広報について話し合う。その後、準備段階としてUDCKの担当者が講師の連絡、日程調整、スタッフの調整、広報への連絡、HPの立ち上げ、ポスター作成を行う。

初年度は上記三者が企画・運営を行うと共に、進行の司会やワークショップ講師としてNPOや企業に委託している。（図3-1、3-2）また、2008年度からは運営スタッフの人数が足りないことから、市民や学生に対してスタッフの募集を行なった。（図3-3）市民への募集は過去の修了生と、別の市民活動「カレッジリンク」の過去の修了生に対し、カレッジリンク主催者である千葉大学を介して呼びかけられた。また、学生スタッフとしてUDCK創設者北沢猛の研究室である東京大学空間計画研究室の学生が参加した。

市民・学生スタッフの役割については、4章で詳しく述べるが、主に会場設営係、記録係、懇親会準備係を担当している。

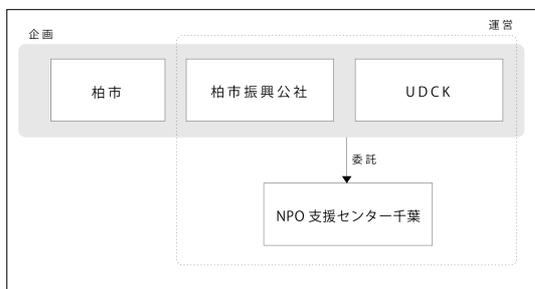


図3-1 2007年春コース 運営体制

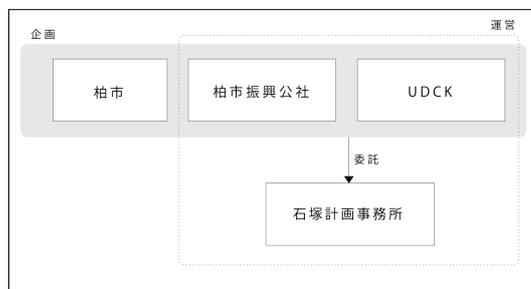


図3-2 2007年秋コース 運営体制

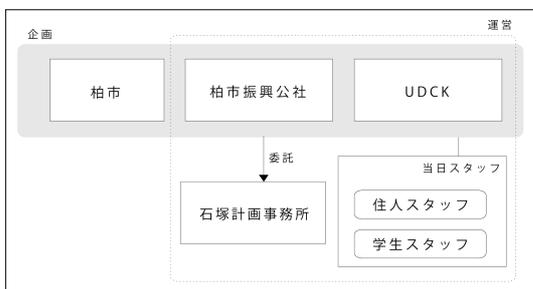


図3-3 2008年コース 運営体制



図3-4 2009年以降 運営体制

## (5) 広報活動

広報活動は、表3-2のように過去の受講者へのメール、チラシ・ポスターの配布、HPであり、タイミングが合えば広報誌「広報かしわ」に掲載している。ポスターやチラシの配布先は、スタッフ・UDCK関係者などである。

表3-2 まちづくりスクール広報リスト

メール	メルマガ	チラシ	ポスター	広報誌	新聞	HP
過去の受講者?	シビックネットワーク	関係者、スタッフ	TX	広報かしわ (間に合う場合のみ)	×	UDCKのHP

## (6) 過去の参加者、活動エリア

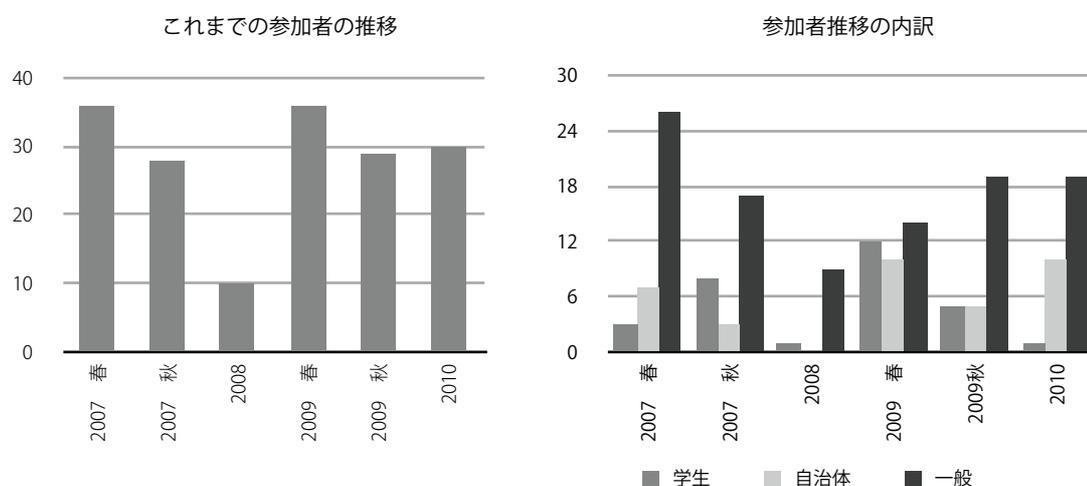
## ■過去の参加者

活動初期から現在に至るまで募集定員は30名である。参加人数変動の具体的な分析は4章で後述するが、活動主体へのヒアリングによって、講義プログラム（講義がメインの座学形式とワークショップがメインの実技形式がある）によってばらつきがあることがわかった。また、活動主体側の意図として、学生、自治体職員、一般市民の三者のバランスの良い参加を図るため、テーマ設定、講師の選定などの調整を行っているが、これまでの傾向として、学生の参加が少ないと言える。（表3-3）

表3-3 これまでのまちづくりスクール参加者リスト

2007/春	2007/秋	2008	2009/春	2009/秋	2010
36	28	10	36	29	30

(出典：丹羽由佳里氏によるまちづくりスクールのまとめ)



### 3章 UDCKの活動における実態把握

過去の参加者（入手可能なデータに限る）の分布を図3-5に示す。柏の葉キャンパス駅前の密度がわずかに高いが、柏の中部からの参加も多く、全体的には散らばっている傾向にあると言える。また、東京都や埼玉県など他県からの参加も見られる。つくばエクスプレス沿線を対象としていたが、柏市からの参加が一番多い。

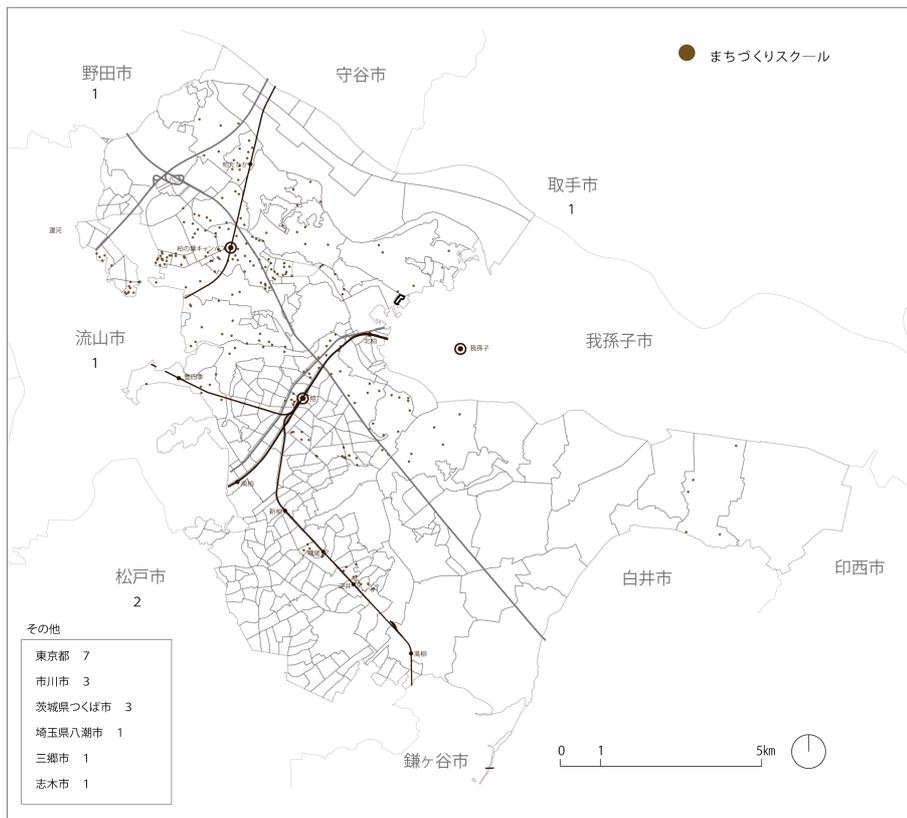


図3-5 まちづくりスクール参加者分布図

#### ■活動エリア

全てUDCK館内で実施。座学形式の時とワークショップ形式では机のレイアウトを変更して行った。

(7)活動の様子



写真3-1 講師レクチャーの様子



写真3-2 ワークショップの様子



写真3-3 発表の様子1



写真3-4 発表の様子2



写真3-5 懇親会の様子



写真3-6 修了証授与の様子

(8)これまでの成果と今後の課題

活動主体からの意見では、これまでに120人以上の参加があり、突発的かつ単発的でなく、例年安定したプロジェクトとなってきていることが大きな成果であることがわかった。また、今後修了生が活動できる「場」づくりや、市民や学生によるプロジェクトの立ち上げをいかにサポートするかといった点が課題となっていることがわかった。

3.2.2 市民科学の実践—事例2『カレッジリンク』<sup>4</sup>

【概要】

(1)活動発足の背景・経緯

2006年の春、「高齢者が大学で学びながら生活できる集合住宅をつくりたいと思います。建設費用は自分たちで持つので、大学の土地を貸してもらえないか」と一人の市民が千葉大学を訪れたことがきっかけで、千葉大学ではカレッジリンクコミュニティの実現を検討し、世代交流型シニアハウジング計画が考えられた。住宅の実現はすぐにはできないが、そこで注目されたのが「カレッジリンク」というコンセプトであった。超高齢化社会を迎えると言われている現在において、高齢者に加えて他世代の知的好奇心をも満たし、若い学生や教員と世代を超えたコミュニケーションを生み出すことが可能になるカレッジリンクというコンセプトは、活力に溢れた地域社会をつくりあげていくための重要なキーワードであるとし、地域の課題に対応した領域横断型の教育プログラムを考え、大学が目指す新たな方向性を見出すことの重要性が考えられた。<sup>5</sup>

(2)活動の概要・目的

上記の背景を基に、実現した活動がカレッジリンクである。これは、柏の葉のまちづくりにおいて、大学が持つ「知」を市民や地域と共有し、まちを教材にしてフィールドワークすることで、市民のライフスタイルとコミュニティ全体の質的向上を目指している活動である。開催主体の千葉大学は、多くの人々がそれぞれの目線で問題点を捉えて議論し、新たな夢や希望を生み出していく「場」であることが今日の大学の役割だと考え、このプログラムが「環境」「健康」「食」というテーマについて市民が主体的に学び、コミュニティと一体となってこれらの問題を解決していくきっかけを創るとともに、柏の葉エリアの「公共、民間、学校」の連携を深める装置としての役割を担っているとしている。図3-6、3-7に示すイメージ図を提示しており、このプログラムを通して地域住民や地域の機関と「互教互学のスパイラルアップ」を目指している。



図3-6 柏の葉エリアの地域活性1

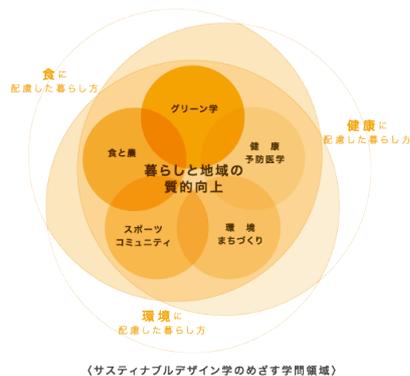


図3-7 柏の葉エリアの地域活性2

(出典：千葉大学柏の葉カレッジリンクプログラムHP <http://www.college-link-chiba-u.com/about/idea.php>)

<sup>4</sup> カレッジリンク (college-links)

大学(カレッジ)と地域社会が組織的に連携(リンク)し、年齢に関わらず地域の誰もが大学で共に学びあう機会を創出する新しい学習プログラムで、約15年前からアメリカで従来にない生涯学習・世代間交流の試みとして広がっている。アメリカでの試みを関西大学客員教授で村田アソシエイツ(株)代表の村田裕之氏が日本の文化・習慣を考慮して体系化し、関西大学らと日本で初めて導入しました。なお、「カレッジリンク」は、村田アソシエイツ(株)の登録商標。

(出典：千葉大学柏の葉カレッジリンクプログラムHP <http://www.college-link-chiba-u.com/about/idea.php>)

<sup>5</sup> 上野武『大学発地域再生』アサヒビール編集販売(2009)

さらに、こうした考え方は、千葉大学元総長であつ古在豊樹<sup>6</sup>の提唱する「市民科学」という考え方に基づいた活動である。「市民科学」とは、市民の立場に立った学問を位置づけることが教育においては重要であり、市民の持つ「普通の感覚」で地域に起る問題を解決することとしている。<sup>7</sup>

## (2)活動内容

活動内容は、基礎コースと専門コースに分かれており、図3-7に示すように、専門コースは基礎コースの修了生のみ受講することができるしくみになっている。また、昨年度からは、専門コースで提案された内容が発展し、専門コース修了生で構成される任意団体「カルネット」が誕生した。その活動内容としては、カレッジリンクで提案した内容を実現することである。詳細は4章で述べるが、現在は2つのプロジェクト①養生訓カルタと②生け垣プロジェクトが進行中であり、修了生の中から希望者を募り、また専門コースの講師（千葉大学）と共に、定期的にミーティングを重ね、プロジェクト実現に向けて動いている。この団体は、基礎コース、専門コースの次のステップとしての受け皿として考えられており、このプロジェクトへの参加を通して、より主体的に市民が活動を運営することを促している。この参加の段階は、step1から3まで3段階に分けて考えることができる。（図3-8）

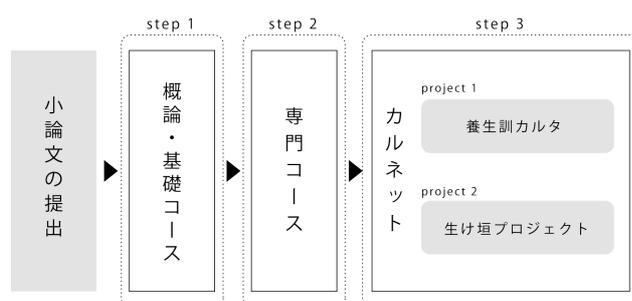


図3-8 カレッジリンクプログラムの流れ

これまでの内容は、表3-4のように「環境・食・健康」のテーマの内、概論・基礎コースでは、①市民がつくるサステナブルデザイン②農・食とサステナブルデザイン③健康とサステナブルデザイン④環境とサステナブルデザインとし、テーマ全体を包括的に学ぶ。専門コースでは、これら3つのテーマの中からそれぞれ個々の専門性を高めるようなプログラムが組まれている。基礎コース・専門コース共に最終回では市民による発表会が行われる。これは講義を基に考えた内容をまとめたプレゼンテーションやテーマに関する提案が行われる。さらに最終発表会と合わせてUDCKでシンポジウムが行われる場合もある。

<sup>6</sup> 古在豊樹

千葉大学名誉教授。農業環境工学などの分野で数多くの実績をあげる。千葉大学学長時代は学生のボランティア活動への支援、教職員の職場環境や学生の教育環境の整備を精力的に進め、現在も大学教育のあり方を追求し、地域との連携などに力を注ぐ。

<sup>7</sup> 千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム公式ガイド『「市民のチカラ」の活かし方』（2010）

3章 UDCKの活動における実態把握

表3-4 カレッジリンクプログラム

年度	名前	テーマ	定員 (人)	参加人数 (人)	リピーター (人)	開催日	参加費
2008	パイロットコース	1 まちづくりとサステナブルデザイン		27	0	1/10	10000円
		2 農・食とサステナブルデザイン				1/24	
		3 健康とサステナブルデザイン				2/07	
		4 環境とサステナブルデザイン				2/21	
		5 これからのカレッジリンク・プログラム				3/7	
前期 概論コース		1 市民が創るサステナブルデザイン	20	13	0	6/6	10000円
		2 農・食とサステナブルデザイン				6/20	
		3 健康とサステナブルデザイン				7/4	
		4 環境とサステナブルデザイン				7/18	
前期 専門Aコース		1 フィールドを知る	20	12	12	5/9	15000円
		2 生理的リラクセス効果実験				5/23	
		3 農と健康				6/6	
		4 五感で楽しむ農				6/20	
		5 療法フィールド構想案の作成				7/4	
		6 療法フィールド構想案の発表と検討				7/18	
前期 専門Bコース		1 体験学習法の理解へ	10	7	7	5/16	15000円
		2 コンフォートゾーンから読み出す				5/30	
		3 問主体性				6/13	
		4 育てるとい仕事				6/27	
後期 基礎コース		1 市民が創るサステナブルデザイン	20	22	0	11/7	10000円
		2 農・食とサステナブルデザイン				11/21	
		3 健康とサステナブルデザイン				12/5	
		4 環境とサステナブルデザイン				12/19	
後期 専門コース		1 全人医療/漢方とお灸から	20	18	18	11/7	15000円
		2 未病と予防医学				11/21	
		3 漢方薬と西洋薬				12/5	
		4 農作物の機能性				12/19	
		5 薬膳と健康				1/9	
		6 健康サステナブルデザイン発表				1/23	
前期 基礎コース		1 市民が創るサステナブルデザイン	20	12	0	5/22	10000円
		2 農・食とサステナブルデザイン				6/5	
		3 健康とサステナブルデザイン				6/19	
		4 環境とサステナブルデザイン				7/3	
前期 専門Aコース		1 野菜の収穫から店先まで	20	13	13	5/8	15000円
		2 市場流通と生協流通				5/22	
		3 この街の産直流通				6/5	
		4 地域の食品メーカーから学ぶ				6/19	
		5 新しく生まれる畑から食卓までの流れ				7/3	
		6 カレッジリンク流 食流通の提案				7/17	
前期 専門Bコース		1 体験学習法の理解へ	20	4	4	5/15	15000円
		2 コンフォートゾーンから読み出す				5/29	
		3 問主体性				6/12	
		4 育てるとい仕事				6/26	
後期 基礎コース		1 市民が創るサステナブルデザイン	20	17	0	11/20	10000円
		2 農・食とサステナブルデザイン				12/4	
		3 健康とサステナブルデザイン				12/18	
		4 環境とサステナブルデザイン				1/8	
後期 専門コース		1 市民が創るサステナブルデザイン	20	14	14	1/22	15000円
		2 触れるためには				11/6	
		3 自然に触れる				11/20	
		4 触れる身体・触れられる身体				12/4	
		5 触れて知る世界				12/18	
		6 触知覚とデザイン				1/8	

(出典：カレッジリンクHP)

## (3)主催・協力

## &lt;主催&gt;

千葉大学、ジャパンライフシステムズ

## &lt;協力&gt;

- ・ 柏市
- ・ 田中地域ふるさと協議会
- ・ 田中農業協同組合
- ・ 三井不動産(株)
- ・ UDCK
- ・ かしわ環境ステーション
- ・ ちば地域市民学会
- ・ NPO野良坊
- ・ NPO健康まちづくりネットワーク
- ・ NPOケミレスタウン推進協会
- ・ NPO支援センターちば
- ・ 今採り農産物直売所「かしわで」
- ・ 三井不動産レジデンシャル(株)
- ・ 村田アソシエイツ(株)

## (4)組織体制・運営

元々JLDS（株式会社ジャパンライフ）が主導のもと企画、運営を行っていたが、徐々に大学側に移行し、現在の運営主体は千葉大学であり、そのサポートをJLDS（株式会社ジャパンライフ）が行っている。

## (5)広報活動

地域住民、つくばエクスプレス沿線を対象としているが、広報活動を行っているところ以外の地域からの参加も受け入れている。（HPを見て他地域から来ている場合もある） 広報活動としては以下の表に告知しているが、その他過去の参加者による紹介や、他のまちづくり活動からの呼びかけによって参加している人がいることも後述のアンケート調査によってわかっている。

また、参加者の申し込みに関して、募集要綱として「小論文」の提出が義務づけられている。

表3-5 カレッジリンク広報リスト

メール	メルマガ	チラシ	ポスター	広報誌	新聞	HP
過去の受講者	シビックネットワーク	・千葉大学構内 ・パークシティ 柏の葉（マンション）へのポ スティング	TX	○	×	HP

(6)過去の参加者の属性・活動エリア

これまでの参加者の人数の推移を図3-9に示す。2009年度が他年に比較して人数の増加があることがわかる。  
 (また、他活動に掲載している参加者分布図は、活動主体によるデータの提供を行っていないことにより、作成不可なため、掲載なし)

活動エリアは基本的に千葉大学構内で行われる。

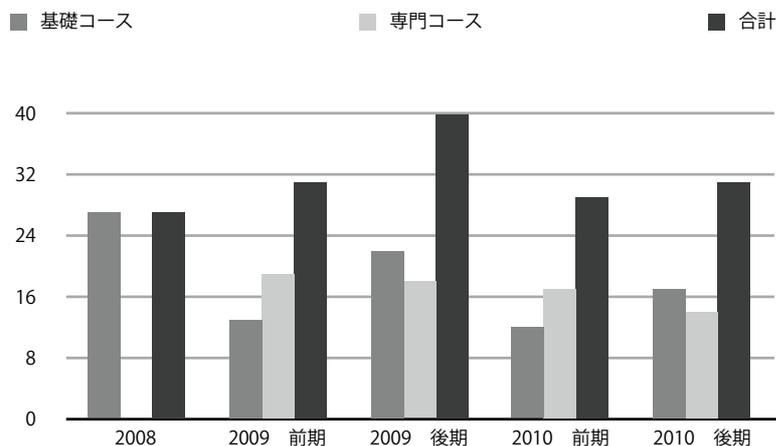


図3-9 カレッジリンク参加者の推移

(出典：千葉大学柏の葉カレッジリンクプログラムHP)